使徒信条

使徒信条は中世以降、広くキリスト教諸教会において用いられた基本的な「信条」です。「信条」とは、聖書の教えを要約したものであり、キリスト教の信仰内容を明らかにしています。礼拝などで繰り返し信仰の告白として唱えられ、信仰養育にも大きな役割を果たしてきました。

ってんち って ぬし われは、天地の造り主 全能の父なる神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府に下り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に上り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりたまいて、生ける人と死にたる人とをさばきたまわん。

われは聖霊を信ず。また聖なるキリスト教会・聖徒の交わり、 罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。

アーメン

使徒信条(1)



人差指で 自分を指す



天 「天」 手の平で上方に 弧を描くように



「世界」 両手指先を 向かい合わせ



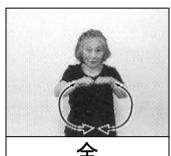
→球を描くように 回す



造り 「造る」 両手こぶしを 打ちつける



「男」 親指を立てた 右手を上にあげる



「完全」: 両手のひら 下向き指先伸ばし 前方へ向け→



下に向かって 円を描くように



能の 「できる」 右手指先を 左胸に当て→



→右胸に当てる



「父」 人差指を頬に 触れ→



立てた親指を 右上にあげる



「ある」 (右上方) 手のひら を下に向けて置く



「神」 指文字の「か」を 右上方に上げる



信ず。

(主なる神を 心に迎える様子)-



握った右手を 左手に 包み込むように

使徒信条(2)



イノイいみ 「わたし」



その 「神」



ひとり子「息子」
「神」から「男」を
下げて前に出す



われらの「わたしたち」
手のひら下向き
内側に円を描く



<u>士</u> 「主」



イエス 左手のひらに右手 中指で釘の跡を 指す→



(同様に) 右手のひらに 左手中指を指す



キリストを 右手「男」を 左手のひらにのせ 上にあげる



信ず。 握った右手を 左手に 包み込むように



五16 右手「男」を 左手のひらにのせ 上にあげる



「聖霊」 「聖霊」 「神」を上方から ねじりながらおろし



「女」: 小指(左手) 横に 「聖霊」を添える



「女」を 右人差指で指す



右手で 指文字「マ」



指文字「リ」



指文字「ヤ」

使徒信条(3)



より生まれ、

「女」のところから 「生まれる」: 右手の ひら上向きを前方に



ポンテオ

「支配(者)」 両手人差指先を 交互に前に出す



→「者」 「男」(左手)を

右人差指で指す



Ľ

右手で指文字「ピ」



ラ

指文字「ラ」



|

指文字「ト」



のもとに

「から」: 指先を 前に向けた手を 横に払う



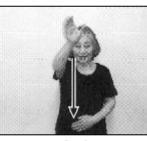
苦しみを

「苦しい」 指先を曲げた手を 胸に当てて回す



受け、

「受ける」 両手でボールを 受けとめるように



十字架に

十字架の 縦棒を描く→



つけられ、

「イエス」の手話の (左手に右手中指) 腕を大きく広げる



→ (同様に) 右手のひらに 左手中指を指す



死にて

「死」 つけ合わせた 両手を



十字架の

横棒を描く

→横に倒す



葬られ、

「葬る」 左手のひらの下に 右手をもぐらせる

使徒信条(4)



陰府に下り、 左手そのままに 右手人差指を 下に下ろしていく



数字「3」を 左胸にあて→



右胸に動かす



日 「後」 手のひらを前に向け 前方に動かす



<u>____</u> 「死」



人の 「人々」: 親・小指を 立てた両手を揺らし つつ左右に離す



うち 左手「人々」を そのまま、内側を 右人差指で指す



より 「から」: 指先を 前に向けた手を 左に払う



よのかんり、 「死」 横に倒した手を→



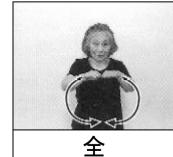
起こす



天に「天」



上り、 右手、人差指と 中指(指先下)を 右上方へあげる



_____ 「完全」



能の 「できる」



「父」→



使徒信条(5)



なる 「ある」 (右上方) 手のひらを 下に向けて置く



神の 「神」



右に 「右」 こぶしを握った 右肘を横に引く



座したまえり。 「座る」 右手2指を 左手2指にのせる



かしこより

「男」を 右上から→



きたりたまいて

手前に 下ろしてくる



生ける 「生きる」: 両手拳を握り 肘を左右に張る



人と 「人々」



死にたる 「死」



人とを 「人々」



「裁判」 親指を立てた 両手を→



肩の辺りから 前方下に下ろす



われは、

「わたし」



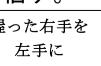
聖霊を

「神」を 上方から ねじりながらおろす



信ず。

握った右手を 左手に 包み込むように



使徒信条(6)



また 「又」 人・中指の 2 指を →



振りおろすように



「美しい」 左手のひら上を右手の ひらで、なでるように



右へ動かす



「イエス」: 左手の ひらに右手中指で 釘の跡を指す



→同様に 右手のひらに 左手中指を指す



「教会」 「教会」 両手の人差指で 十字を作る→



「家」 両手で 屋根形を作る



<u>聖</u> 「美しい」



「人々」



「交流」: 両手上下 におき互い違いに 水平に動かす



「悪」: 人差指で 鼻先をなでるように 横切り下ろす



→「反抗」 肘をつくように 張る





「体」 手のひらを 体の前で回す



よみがえり、 両手のひらを合わせ 横に倒した手を→

使徒信条 (7)



「本当」: 右手・

指先上向の人差指

側を顎に当てる

握った右手を

左手に

包み込むように

使徒信条•補足説明

1998年発行冊子では、式文の新しい訳を採用しましたが、今回は、式文の文語訳を採用しました。

十字架にかけられた釘の跡を示す「イエス」の手話は共通した表現ですが、 この冊子では、キリスト教用語といえる、例えば、「信仰」「罪」「赦し」「救 い」「栄光」「永遠」「聖霊」など、諸教派とは少し異なった手話表現も見ら れることでしょう。

例えば、「信ず」:主なる神を私の心の中に受け入れる「信仰の心」を表現「聖霊」:聖霊なる「神」が降られる様子として表現

いずれも、研修と話し合いを重ね、与えられている信仰の心に裏付けされ ながら、決めてきた表現です。

「ポンテオ ピラト」は人名ですが、総督としてのピラトの立場から、「支配者ピラト」の表現になっています。

1998年発行冊子では、「全能」を「完全・全て」+「力」+「もつ」と表現しましたが、今回の見直し研修で、「完全」+「可能・できる」との表現になりました。

指文字「マリヤ」

「ピラト」

